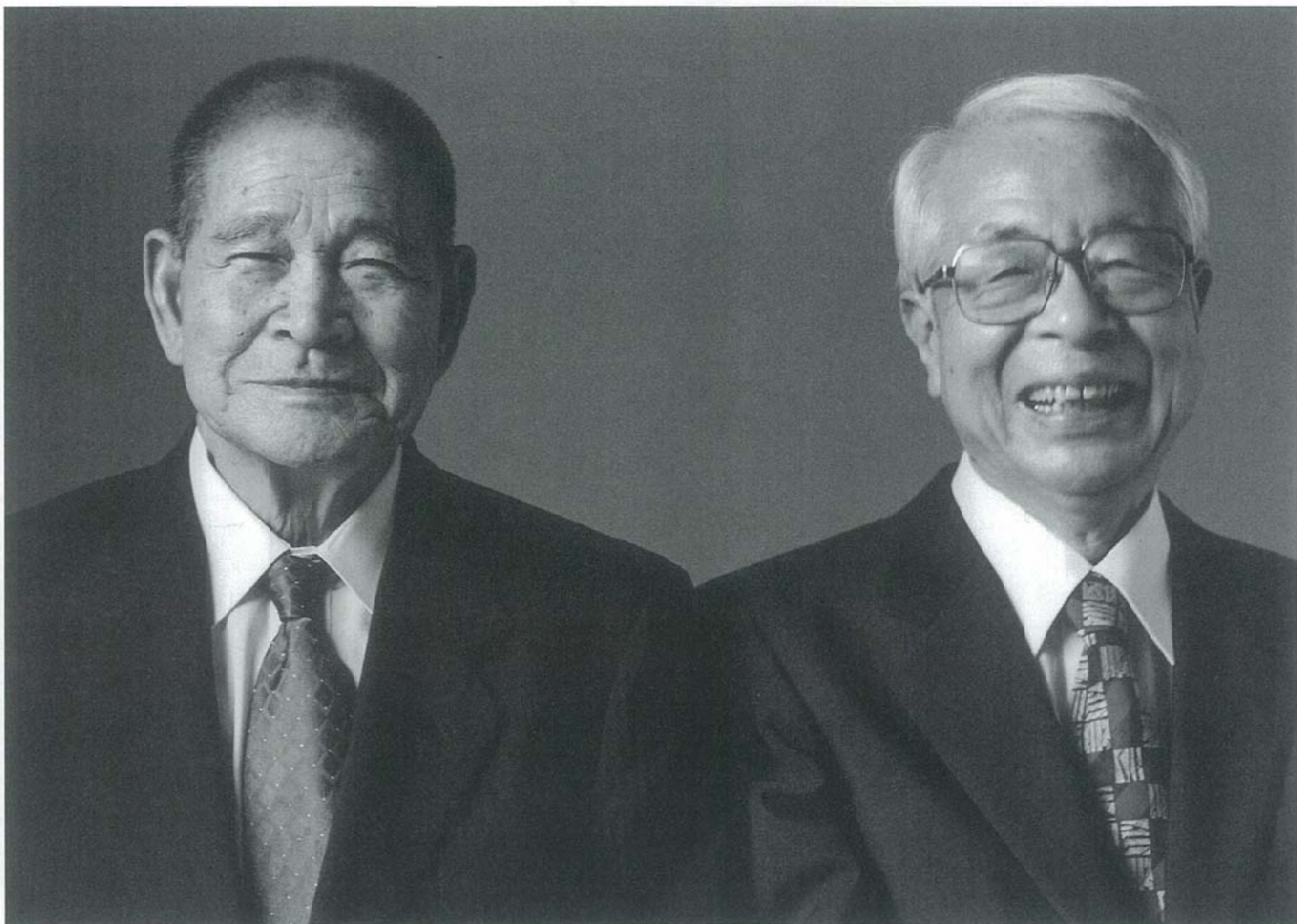


先覚の書の恩徳、 限りなし



論語普及会学監

伊與田 覺

いよた・さとる——大正5年高知県生まれ。学生時代から安岡正篤氏に師事。昭和15年青少年の学塾・有源舎発足。21年太平思想研究所を設立。28年大学生の精神道場有源学院を創立。32年関西師友協会設立に参加し理事・事務局長に就任。その教学道場として44年には財団法人成人教育学研修所の設立に携わり、常務理事、所長に就任。62年論語普及会を設立。著書に「人に長たる者」の人間学、「大学」を素読する、「己を修め人を治める道」、編著に「論語一日一言」（いずれも致知出版社）など。

立命館大学教授

加地 伸行

かじ・のぶゆき——昭和11年大阪市生まれ。京都大学文学部卒業。専門は中国哲学史、大阪大学名誉教授。現在、立命館大学教授、同大学白川静記念東洋文学文化研究所所長。平成20年第24回正論大賞受賞。著書に「儒教とは何か」（中公新書）「論語全訳注」「孝経全訳注」「すらすら読める論語」（いずれも講談社）「論語再説」（中央公論社）「論語 古典入門」（角川書店）など多数。

対談

「論語」など東洋古典研究の第一人者として知られる立命館大学教授の加地伸行氏。七歳の時から九十四歳の今日まで「論語」の素読を続け、古典の道を極めてきた論語普及会学監の伊與田覺氏。大学、在野と、それぞれ歩んだ道は異なるものの、両氏とも母親の死を転機に古典に目覚め、いまではその恩徳は計り知れないものを感じていると語る。「孝経」や「論語」を中心に、古典に支えられたこれまでの人生を語り合っていた。